

若手建築家による展示コラム

## 木製ボンボン入れ

—  
塚越 智之

小さなお菓子の入れ物、ボンボン入れ。木を滑らかに削ってつくったこの入れ物は、窪んだ曲面が反復する蓋と、膨らんだ曲面が反復する器からできています。

蓋と器のつくりは対照的ですが、器の膨らみがさりげなく蓋を受けているので境目は曖昧です。この窪みや膨らみが手懸けを兼ね全体の形にまぎれているので、ぼんやりと眺めていると入れ物であることを忘れてしまいうそうです。

こうしたつくりが相まって、このボンボン入れは光の当たり方や見る角度によって異なる姿を現します。上から光を当て見下ろすと、窪んだ曲面の端に深い影が現れ輪郭が際立って見えます。反対に膨らんだ曲面には頂部を境に段々と濃くなる影ができ、輪郭がぼやけます。それらの影は明るい木肌によりいっそう印象深く映り、

窪みがシャープに浮かび上がった姿はまるで仏塔の様です。一方、ボンボン入れ全体に光を当てると曲面がつくり出す影が弱まり、窪みと膨らみからなる姿全体が見えてきます。こうした姿は水滴が落ちた瞬間の水面をイメージさせます。またこの状態を横から見ると今度は器の膨らみが印象的に映り、可愛らしい生き物のようです。

私たちが生活する部屋は天気や時間帯によって光の状態が変化します。また椅子に座ったり手に取ろうと近づいたり、人がプロダクトに向ける視線も様々です。建築家であったタウトはそうした生活のシーンを想像し、単に美しいだけでなく暮らしの中で様々な表情を見せるもの考えたのではないのでしょうか。コロナ禍で家にいる時間が増えた今、一緒に暮らしていて楽しいこのプロダクトの価値がより分かる気がします。

